

TSURUMI こどもホスピス

TSURUMI CHILDREN'S HOSPICE

No. 12-046-2017作成

新築
病院/その他

発注者	(一社)こどものホスピスプロジェクト	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO ₂ 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計・監理	大成建設株式会社一級建築士事務所		E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携			
施工	大成建設株式会社		I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他			

難病のこどもと家族の第2の家となる、日本初の「コミュニティ型こどもホスピス」



南側外観。6つの家型が中庭を囲むように連なる構成で、村のような一体感と、家型のずれによって生まれる多様な空間を創出

難病の子どもと家族を民間の寄付によって支える日本初の「コミュニティ型こどもホスピス」である。日本に前例のないプログラムに対し、まずここで生活のシーンを想い描く事から始めた。ここで過ごす時間の中には楽しいだけでなく辛いときもある。「その時の気持ちに応じて居場所が選べること」「それぞれの居場所が孤立せず緩やかに繋がっていること」が大切だと考えた。家のようにくつろげる空間であるだけでなく、多様な空間やスケール・居場所があり、繋がりを持つ村のような場所を目指した。

「6つの家」を「道の空間」によって繋ぐ。家には様々な特徴を持った部屋があり、楽しさや喜びに溢れる場面に出会う。家々の間には小さな溜まりのスペースやいろんな形の庭があり、少し離れて休んだり、時には隠れて泣いたりもできる。道の空間は公園全体へ伸びていき、地域全体で子どもと家族を支える拠点になる。

民間の善意によって支えられるTSURUMIこどもホスピスの継続には地域・社会の理解と支援が必要である。そのためにも子どもや家族、支援する全ての人の心を動かすようなやさしい風景となることを目指した。この風景が社会へ広がり、さらに多くの支援の輪が広がり、第2,第3のコミュニティ型こどもホスピスの道標となることを願っている。

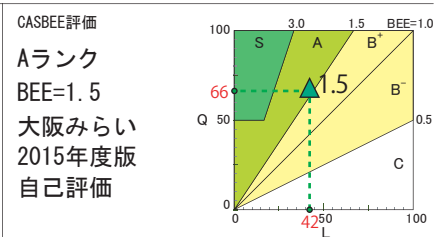


南側鳥瞰写真



配置図兼1階平面図 S=1/1200

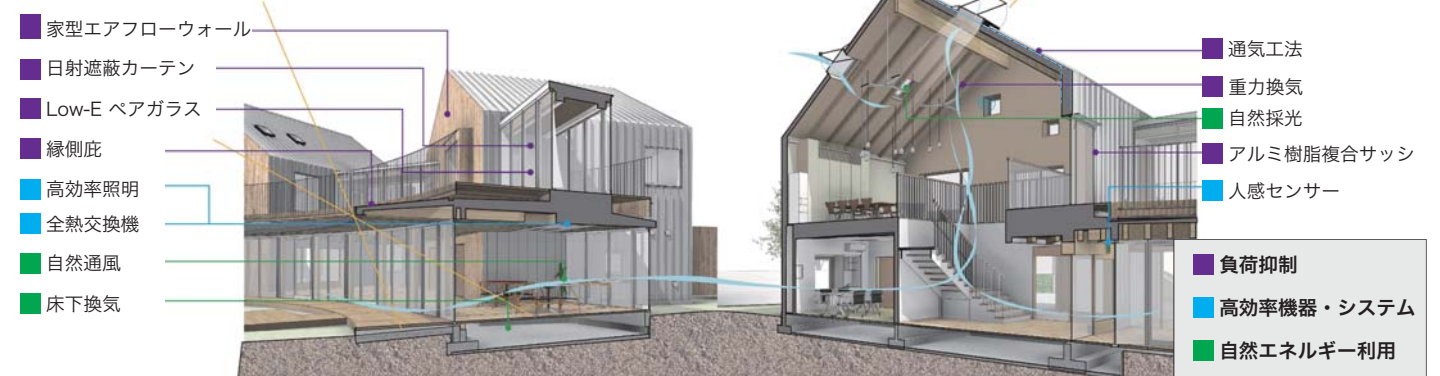
所在地	大阪府大阪市
竣工年	2015年
敷地面積	2,719㎡
延床面積	979㎡
構造	木造(軸組工法)
階数	地上2階



■ ありのままの環境を安心して享受できる環境制御技術

病院の治療を続けてきた子どもにとって、家族と共に過ごせる自宅は安心して暮らせる空間そのものである。ここでの環境も同様に病院のように完全に制御されたものではなく、家のようにありのままの環境を享受できる空間がふさわしいと考えた。そこで、休憩室やプレイルームといった目的が明確な部屋は、東西面の熱負荷の大きい壁面に二重の通気層を設けた家型エアフローウォールやアルミ樹脂複合サッシを採用することで断熱性能を高めた「6つの家」にそれぞれ設け、安定した温度環境の中で安心して活動できるようにした。

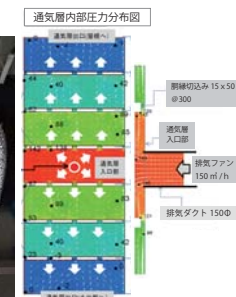
それに対して、様々な使い方を許容し、部屋同士をつなぐ活動的な場所になる「道の空間」は、ガラスを多用しながら、Low-Eペアガラスの採用や、吹抜けによる温度差を利用した重力換気、季節風を考慮した平面計画による自然通風、南面縁側デッキに設けた弧を描く深い庇などにより、季節に応じて出来る限り空調設備に頼らない計画とした。さらに、様々な環境負荷低減・省エネ技術を導入し、利用者にも環境にも優しく、快適に過ごせる空間を目指した。



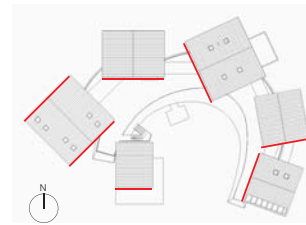
■ 南西面の熱負荷を低減する家型エアフローウォール

夏季の熱負荷が大きくなる南西面の外壁は、家型の外壁木製サイディングと、外壁で耐火構造を形成するための金属板の間に通気層を設け、棟換気口まで接続させ、そこに一般居室からの排気を送ることで、外壁からの熱負荷を効率的に排熱する計画とした。

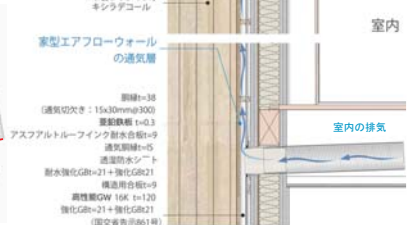
実施に当たってはCFD解析により通気層内部の気流・圧力状態の検証を行ったほか、現場において原寸のモックアップを作成し性能の確認を行った。熱環境性能を向上させつつ、設備部材が露出しない家型壁面は、端正なディテールと相俟って美しい佇まいを見せている。



圧力損失CFD解析



設置位置図



断面詳細図

設計担当者

設計: 大成建設株式会社一級建築士事務所 / 建築: 出口亮・片瀬順一・麻田北斗 / 構造: 井上慶一郎・大石哲哉・百武亜希子 / 設備: 小野田修二・三宅英司・久保田宗人・倉林陽子
外構: 山下剛史、木川薫 // 家具デザイン: 藤森泰司アトリエ / 照明計画: シリウスライティングオフィス / カーテンデザイン: 安東陽子デザイン

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (分棟による圧迫感のない配置計画/新たなシンボルの形成/光源を見せない柔らかな照明)
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制 (家型エアフローウォール/深い庇による日射遮蔽/Low-Eペアガラス/アルミ樹脂複合サッシ)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (自然採光/トップライト/自然通風/重力換気)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (LED照明、センサー制御)